

学校・家庭・地域の連携について

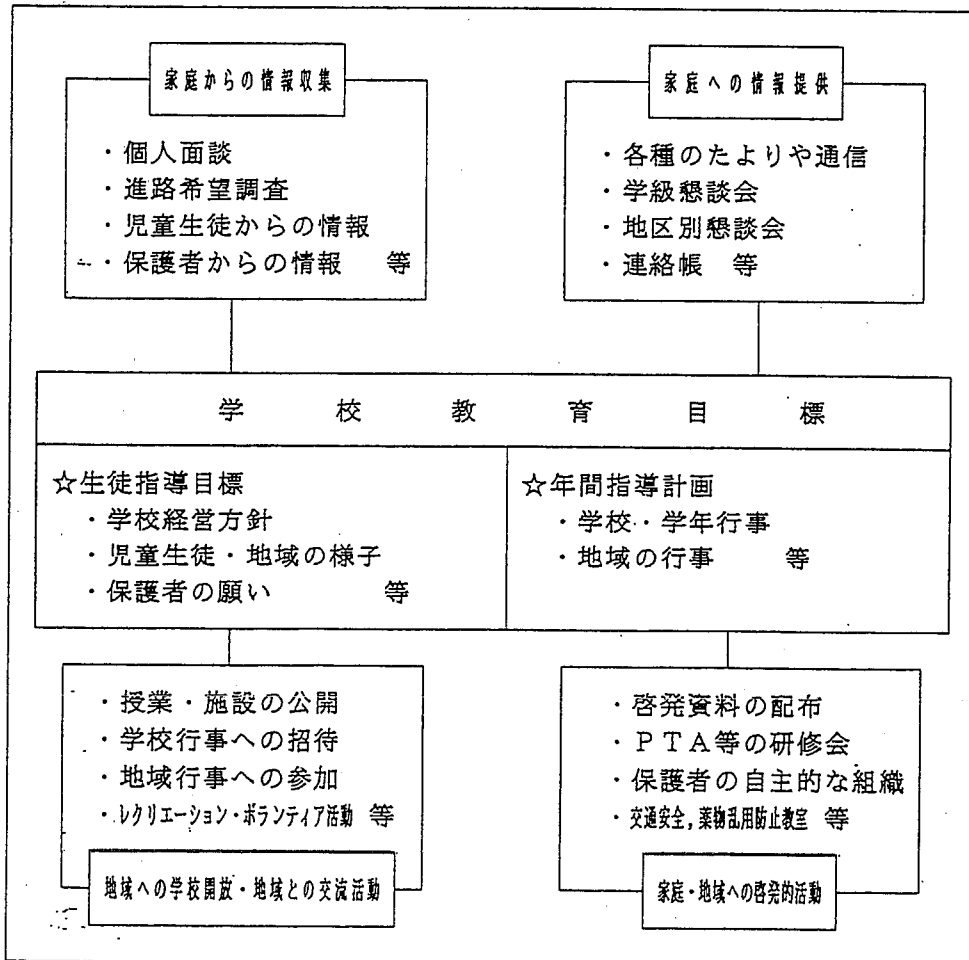
1 学校・家庭・地域の連携の必要性

児童生徒の個性を尊重し、その伸長を図るためには、学校、家庭、地域がそれぞれの教育機能を十分に発揮し、その責任を果たすとともに、相互の連携のもとで、教育効果が高められるように努めることが大切です。

最近の問題行動の状況には、広域化、集団化、粗暴化する傾向がみられ、学校だけですべてを解決することは困難な状況になっています。その背景のひとつには、一人一人の児童生徒が自己実現できる場が十分でないことや、家庭や地域において人間関係を深めることのできる体験の場が不足していること等があると考えられます。したがって、問題行動を未然に防止するためには、学校、家庭、地域が連携を密にして、すべての児童生徒が生き生きと楽しく生活を送ることができるよう、そのための条件づくりに協力していく必要があります。

次の図に示すように、学校は、家庭や地域からの協力を得て教育効果をあげることができます。したがって、日ごろから家庭や地域との相互理解を深め、お互いに良きパートナーとして、それぞれの役割を分担する中で信頼関係を築いていくことが大切です。

学校・家庭・地域の連携



2 学校と家庭の連携の必要性

児童生徒を指導・支援するためには、学校・家庭が児童生徒の個性の伸長にどのように影響しているかを十分に理解しておく必要があります。

家庭は、児童生徒の人格を形成する教育環境として最大の影響力をもっているといっても過言ではありません。児童生徒の成長の土台となる「信頼感」の形成には、自己を受容、共感し、温かくみまもってくれる人が必要です。児童生徒は、自分がかげがえのない家族の一員であり、愛されていると実感することによって、自己存在感をもち、安心してのびのびと楽しく暮らすことができるものです。

しかし、最近の保護者の中には、子どもの教育について自信を失っていたり、子どもを放任したり、過保護や過干渉になったりしている場合もあり、改めて家庭のもつ教育力の活用について考えることが重要になっています。

学校は、児童生徒の家庭における生活状況を的確に把握し、学校における教育方針や指導について、保護者に理解と協力を求めていくことが大切です。このためには、日常的に、学校と家庭の相互が連絡しあい、情報を交換することが必要となります。

また、家庭との連携を密にするためには、家庭の役割や保護者の立場を十分に尊重することが重要です。大切なことは、学校や学級（ホームルーム）担任の立場だけで家庭に協力や依頼をするのではなく、児童生徒の課題を明らかにし、それぞれが役割分担をしながら解決を図るよう努めることです。そのうえで、どのように働きかけたり、どのように相談をもちかければ、保護者が児童生徒の教育に自信をもち、家庭の教育力が十分に発揮できるようになるかを考えることが大切です。

学校と家庭の連携を深める方法として、次のような例が考えられます。

① 学校・学級通信等による相互交流

児童生徒の指導に関する学校の指導方針や校則等については、児童生徒への周知はもとより、保護者の理解を得ておくことが重要です。そのためには、日ごろから学校・学級通信等を通して、学校から積極的に家庭に情報提供を行うことが大切です。

また、学校・学級通信等は、学校からの一方的な情報の提供に終わりやすく、相互連携としては十分ではありません。相互に意見や情報を交換し合う中で児童生徒理解を深め、共通の指導観を築くことができるように工夫することが大切です。

② 日常的な保護者等との相互交流

保護者は、子どもの情報について、最もよく知っており、最大の提供者でもあります。子どもが発する様々なサインについて、学級（ホームルーム）担任には気付くことが難しいことでも、保護者には把握できることもあります。

また、学校生活における児童生徒のわずかな変化、例えば授業中や休憩時間の態度及び遅刻や早退や欠席などについては、学級（ホームルーム）担任が状況を把握し、常に保護者と連携していくことが大切です。

つまり、学級（ホームルーム）担任は、家庭が児童生徒の個性の伸長に重要な役割を持つことを理解し、学級における指導の方針や指導上の課題について、家庭の理解と協力を求め、その解決のための具体的方策、子どもの成長に関する要望や意見などが学級（ホームルーム）に寄せられるよう、日ごろからの信頼関係を築き、保護者がいつでも相談できる態勢をつくっておくことが大切です。

③ 保護者会等による相互交流

学級（ホームルーム）担任と保護者が密接な連携を図っていく上で、保護者会等は大きな意義があります。しかし、限られた機会ということもあって、話合いの内容が学習の成績や伝達事項に偏りがちになっている状況もみられます。

その内容が学校や保護者にとって本当に意義あるものとするためには、保護者会等の内容を学校や学級（ホームルーム）担任が一方的に決めるのではなく、保護者が日ごろから聞きたい、話し合いたいと思っていることを児童生徒から、あらかじめ聞いておく等、保護者の期待に応えられるような会にするための工夫が必要です。

④ 家庭訪問等による相互交流

家庭訪問等は、児童生徒の家庭での具体的な生活状況や生活課題を把握し、十分な児童生徒理解に基づく指導を効果的に進めるために重要です。そのためには、日常から、学級（ホームルーム）活動などを通して、児童生徒の状況を的確に把握するとともに、児童生徒の状況について、常に保護者等と連携がとれるようにしておくことが大切です。

家庭訪問等には、「どのように児童生徒を指導・支援していくか」といった計画的に行う訪問のほか、児童生徒の発するサインやわずかな変化を把握するための訪問や具体的な課題の解決にかかわっての訪問、さらには病気、けが、事故などの緊急対応のための訪問等があります。

家庭訪問等にあたっての基本的な考え方や態度及び実施上の工夫や留意点には次のようなことが考えられます。

- ・ 訪問の前に、どういう課題について、どのように話すかなどの目的を明確にすることが重要です。また、基本的には、事前に予定を知らせ、家庭の都合等を聞いたうえで実施することが大切です。しかし、訪問を拒否されたときは、家庭の事情や学校・学級（ホームルーム）担任に対する不信感などの原因を考え、それがどのような意味を持っているか慎重に検討する必要があります。
- ・ 訪問中は、話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、保護者との相互理解を図ることが大切です。そのためには、家庭生活や保護者の態度についての批判をしたり、一方的に話をすることは避け、じっくり聞く姿勢を持つことが必要です。
- ・ 話合いにおいては、学校生活における授業や学級（ホームルーム）活動、学校行事、クラブ活動、部活動などさまざまな場面での児童生徒のよい点をとりあげ、それをさらに伸ばしていくという観点で働きかけることが重要です。また、保護者の気持ちを共感的に理解していく中で、児童生徒の自己実現へ向けての課題を、保護者が主体的に受けとめ、子どもに働きかけていくことができるよう援助を進めることが大切です。
- ・ 具体的な課題の解決にかかわって家庭訪問が必要になった場合には、その課題が生じた背景や原因を保護者とともに明らかにしていくことが大切です。その際、児童生徒の思いや願いを大切に、自己実現を阻んでいる要因を取り除くために、学校・家庭が、それぞれどのような役割を果たし、どのように協力していくかを確認することが重要です。

3 学校と地域の連携の必要性

地域とともに子どもたちを育てていくという観点から、これからの学校は、家庭のみならず地域に対しても垣根のない「開かれた学校」になることによって、学校の活動がより活発になり、地域から学校の教育方針や指導に対して十分な理解と協力が得られるようになります。

これからの学校は、児童生徒に「ゆとり」の中で「生きる力」を育てることが大切です。学校での教育活動のみならず、地域で、大人や異年齢の児童生徒との人間関係づくりや様々な生活体験、自然体験などを積む機会を用意することが重要です。

また、地域の人々に、通学時の交通安全指導、あいさつ運動などに積極的に協力してもらったり、学校のもつ文化的な情報などを提供したり、施設をはじめとする環境を開放するなど、日頃から地域の人々とコミュニケーションを図る必要があります。

児童生徒を取り巻く様々な課題の解決のために、学校を軸として、それぞれの特性や役割を生かして、地域のあらゆる力を結集して子どもを育てるための「地域のネットワーク」をつくっていくことが必要です。

学校と地域の連携の方法としては、次のような例が考えられます。

- ・ 文化祭や運動会などの学校行事は、地域の人々に対して参加を募るとともに、授業参観等も、保護者のみならず地域の人々も自由に参観ができるような工夫をする必要があります。
- ・ 地域の人々と連携を図り、児童生徒がPTA活動や地域の子ども会活動等に参加するよう促すことが大切です。また、児童生徒が地域で行われている自然体験活動やボランティア活動などへ積極的に参加するとともに、学校は地域に根ざした体験活動の機会を豊かにする必要があります。
- ・ 地域に「開かれた学校」をめざし、様々な情報手段を利用する等、学校の情報を提供するための伝達方法を工夫することが大切です。
- ・ 地域の人々や地元商店街等と連携を図って、防犯ステッカーや安全マップ等を作成するなど、児童生徒の安全が確保できる取組みを進めることによって、協働態勢を確立していくことが大切です。